

弓道専門部 普及について

埼玉県高体連弓道専門部
県立深谷第一高等学校 坂本 修

1 現状

① 中学実施校（含スポーツ少年団）

秩父第一中、市立浦和中、浦和実業学園中、所沢市弓道スポーツ少年団、秩父市弓道スポーツ少年団
（個人で市町村弓道連盟に加入するケースあり）

② 高校生競技人口（全国高体連弓道専門部実態調査より）

	加盟校数 (含部員0)	男子 部員数	女子 部員数	部員数 計	全国 加盟校数	全国 部員数
平成23年度	93	1,653	1,563	3,216	2,134	65,770
24年度	93	1,617	1,643	3,260	2,119	67,004
25年度	93	1,680	1,722	3,402	2,084	66,846

地区別

地区	東部	南部	西部	北部
加盟校数	19	27	25	19
部員数	651	1,227	897	627

③ 埼玉県弓道連盟一般会員数 約3,000人（H20年）

④ 弓道場数（公営・私営） 東部：7 南部：15 西部：20 北部：19

2 普及活動

- ① 高体連
 - ・ 各学校における部活動勧誘活動
 - 入部説明会：新入生に対して
 - 体験入部：中学生に対して
 - 文化祭におけるアトラクション：一般来場者に対して
- ② 弓道連盟
 - ・ 各市町村弓道連盟における弓道教室（各連盟によって回数は異なる）
 - ・ 小学生対象の弓道体験
 - ・ 昇段審査のための講習会実施
 - ・ 高校と一般合同の弓道大会の実施

3 課題

- 高校卒業後に弓道続ける者が少ない。
 - ・ 高校で燃え尽きてしまう。
 - ・ 弓道が面白くない。
 - ・ 仕事等多忙でやる暇がない。
 - ・ 大学に進学しても部活に入らない。
 - ・ 弓道が続けようとしても、弓道連盟及び弓道場がない。

4 対策

- ① 大学のスポーツ推薦をうまく活用することで、続ける方向に向ける。
- ② 弓道指導者の育成。
- ③ 高校卒業後も弓道続けたいと思わせるような指導をする。
- ④ 各地域の弓道連盟との連携。